

入 選

いろいろな顔をもつ水

水戸市立第四中学校

一年 石 崎 美 藍

水という言葉から思いつく事、それは、おいしい、きれい、便利、恐怖など。蛇口をひねると簡単にでてくる水、顔を洗ったり、歯をみがいたり、水を飲んだり、トイレやお風呂、掃除など、朝起きた時から夜寝るまで一日中私達は水を使っています。そんな私達の生活になくてはならない水ですが、時には、恐ろしいものになる事もあります。私が二歳の時に起きた東日本大震災では、建物や車を流してしまうほどの津波が起き、人の命もたくさんうばいました。私は当時の記憶はあまりありませんが、毎年見るニュースで恐怖を感じています。私達の住む水戸市でも断水が起きました。私の家は二日間でしたが、その間にお父さんや近所の人達と笠原水源に水をくみ

に行きました。それでも生活するには全然たりる量ではありませんでした。自然災害がおこる事により恐怖でもあり不便になる事もあります。

私は、小学生の時に社会科見学で楮川浄水場に行きました。浄水場では、那珂川の水を取水塔からくみあげ、ダムへ貯水し、きれいな水を作っています。かつ水や災害で水をくみあげられない時に備えて、水戸市で使う二週間以上の水をダムに貯水する場所だという事を知りました。その時に浄水場で働く方が、

「東日本大震災の時には、みなさんのお宅に水をお届けする事が出来ず申し訳ありませんでした。」

と、言っていました。私はなぜ浄水場の方が私達に謝っているのが不思議でしたが、それだけ水が人の生活にかかせないものであり、命も守る大切なものだと改めて感じました。それと同時に、浄水場の方々は、市民の生活を守る事に責任を持って働いているのだなど、とてもありがたく感謝しなくてはいけないと思いました。

今回、この作文を書くにあたり調べてみると、生

活する中で、食事の準備や皿を洗うなど、家の中でみんなの為に使う水の量は、なんと、一人一日あたり約三百リットル使っていることが分かりました。三百リットルと言ってもピンときませんが、二リットルのペットボトルで考えてみたらすごい量でした。私は、毎日お風呂を洗いお湯をためる事が当番です。しかし、先日、いざお風呂に入ろうと思った時、お湯がぜんぜんたまっていませんでした。栓をし忘れてしまいました。その時は、「やってしまった！」と、とてもショックを受けました。そして今思うと「ペットボトル何本分だったのだろう」と、その時の事を思い出し、確認がどれだけ大事か反省しました。でも、その日ショックを受けかなしの気持ちで入ったお風呂でしたが、きれいで温かいお湯は気持ちよく、その日のつかれをとってくれました。水は、私達の気持ちをきり替えてくれる素晴らしいものもありました。

もう一つわかった事は、水戸という地名の由来についてです。昔から海や川の水の出入口のことを「みと」または「みなと」と呼ばれていました。水

戸の場合も那珂川と千波湖との間に突き出した大地の先たんだった為、水戸という地名になったという事です。水戸は水との関わりがある事も知り、より水が身近に感じました。

今まで蛇口をひねれば水が出るとあたり前に思ってきた事、でもそれはあたり前ではない。これから少しでもその事を意識し、水がある生活に感謝して大切に使用したいと思います。水に恵まれている今の生活をこれからも続けていけるように。